

林業が危険な理由と防止策

依田林業新聞

今や林業は人手不足が問題になっている上、災害発生率が高く、災害の重篤度も高いと言われています。何故危険なのかを検証し、改善出来る方法を確認していきましょう！

危険な理由

- 天候に左右され、現場の状況も変化する
- 足場の悪い急斜面での作業をする
- 鋭利な刃物を使用する(チェーンソー、下刈り機、なた、かまなど)
- 伐倒作業による伐倒方向の特性がある(折れ、裂け)
- 狭い不整地を重機で走行する
- 被災者の発見が遅れる
- 救助に時間が掛かる

刃が露出した道具を使用しながら急斜面で作業することが、1番の要因になっています。これらを踏まえながら、道具・知識・作業に分けて、防止策を確認していきましょう！

道具

- 刃物は常に切れるようにしておくこと
- 特にチェーンソーは、手入れが不十分だと、
- ☆燃費が悪くなる
- ☆仕事が汚い、遅い
- ☆体が疲れる
- ☆力が入り、キックバックし、被災する
- 道具の点検をしっかりと行うこと
- ☆現場で使用する道具全て安全点検をする
- ☆安全ベルト、ワイヤー等道具に対する点検確認も行う

知識

- リスクアセスメントの打合せ
- ☆安全管理教育
- ☆ヒヤリハット
- 災害事例の確認
- ☆自らを置き換えてイメージする
- ☆危険予知活動をする
- 知識を武装する
- ☆自ら疑問を感じたら調べる

作業

- 考えるクセをつける
- ☆かも知れないをクセ付ける
- 横着をしない
- ☆時短作業、面倒くさい、疲れなどでのつい、うっかりをしない
- 出来るか判断する
- ☆難しい作業は無理をせず、熟練者に確認し、出来る出来ないを判断する

大切なことは・・・

- 中途半端な気持ちで作業は行わない
- 未然に防ぐ技術という名の武器を持つ
- 毎月の安全管理教育、毎日の安全点検を行う
- 緊急連絡通報の確認を怠らない
- 作業員との信頼関係を作る
- 林業で死なないという気持ちを持つこと

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

心に響く一言

何かを手に入れるためには
執着心を断捨離する(捨てる)
ことが必要だ

苗木の大切さ

どんなに大きな杉の木でも、初めは小さな苗でした。人工林は主伐をした後に新たな苗を植栽し、それを保育して再び森へと育てます。そのスタート地点である苗木が、実はコストがかかる工程であることはあまり知られていません。苗木生産が低下している理由として、シンプルに「主伐がおこなわれていないから」です。戦後復興のための拡大造林政策として、伐採跡地に杉やヒノキなど比較的成長の早い木だけを沢山植えました。しかし苗が育つのを待てずに、外国産の安い木材の輸入が始まり、国産材の需要が低下。林業経営は次第に厳しい状況になり雇用の低迷が続き、若い林業従事者が激減し、林業従事者の高齢化が深刻になっていきました。常に人手不足な林業の現場では、間伐だけの実施主伐を控える傾向にあります。主伐時期を迎えた木が放置状態となり、そのため植栽が出来ず、苗木も育てることの出来ない悪循環から、苗木生産が低迷しています。そこで林野庁が推進しているのが、コンテナ苗です。種から苗木が育つまでに3年の月日が経つのにに対し、コンテナ苗は1年程で育ちます。低コストで量産することが可能なため、徐々にシェアは拡大しています。主伐は大事ですが、苗木も大切な1つです。同じ比率で実施出来るよう、積極的な取組みが必要なのです。